

項目	内容
供給	<p>1. 国内</p> <p>(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会の令和5年6月末実施)によると、6月の推計実績は処理羽数61,862千羽(前年比101.6%)、処理重量187.0千ト(同101.7%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.2%、処理重量は1.4%上方修正された。九州で一部豪雨の影響が出たものの、概ね順調であるとのこと。暑さの影響はさほど出ておらず増体も良く、処理羽数と比較して処理重量の伸びが良い結果となったようだ。</p> <p>(2) 7月の計画は処理羽数、処理重量とも前年をわずかに上回る見通しとなっている。地区別で見ると処理羽数は、中部地区を除く、北海道・東北地区、関東地区、近畿・中国・四国地区、北部九州地区、南九州地区で前年を上回る見通しであり、処理重量は中部地区、近畿・中国・四国地区以外は前年を上回る見通しである。7月に入り、猛暑日も多く観測され、生産への影響が懸念される。工場の人員不足は技能実習生が来日するようになったことで、少しづつ解消されており、加工品(切り身・手羽中ニツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の生産は徐々に回復していくと思われる。</p>
	<p>2. 輸入</p> <p>(1) 財務省7月28日公表の貿易統計によると令和5年6月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+6.0千トの57.7千トで、国別ではブラジルが前月+2.8千トの41.4千トでタイが+2.9千トの15.2千トとなり、ブラジル・タイともに前月より増加となった。前年同月の実績に対しては+5.5千トとなった。各国ともに輸入量は安定しているが、ブラジルでの鳥インフルエンザ発生に伴う発生州からの一時輸入停止措置の影響が懸念される。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、7月が51.1千ト(前年比112.0%)、8月が47.2千ト(前年比99.5%)となっている。7月は前月時点の予測から増加となっている。ブラジル産についてはブラジル国内で家きんにて鳥インフルエンザが発生したことにより、価格が上昇傾向となっており、今後の国内市場への影響が懸念される。タイ産についてもブラジルの影響もあり引き続き価格は上昇傾向となっており、国産ムネ肉への影響が考えられる。</p> <p>(2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から+4.3千トの39.7千トで、国別では中国が+3.2千ト、タイが+1.2千トとなった。前年同月の実績に対しては▲6.5千トとなり、前月比からは増加し、前年比は下回る結果となった。タイの生産は引き続き安定しており、6月実績は増加となった。価格については依然として高騰しており、上昇傾向が予想される。外食についてはインバウンド需要等で回復しつつあり、中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。</p> <p>(3) 財務省が7月28日に公表した貿易統計によると6月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より2.2%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より5.3%上昇した。国別ではブラジル産の価格が323円/kg(前月比36円高)、タイ産が372円/kg(同25円高)となっている(国別平均価格)。前年比ではブラジルは上昇しタイは下降した状況である。ブラジル産は6月実績は上げ基調となっており、国内市場価格も多少上昇傾向となっている。今後は、ブラジルでの鳥インフルエンザの発生状況に伴う各国の対応次第で状況に変化が起る可能性がある。タイ産については現地価格が引き続き上げ基調になっており、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。</p>
需要	<p>1. 家計消費</p> <p>(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和5年6月の生鮮肉消費(購入)は数量4,025g(前年比102.8%)、金額6,234円(同104.1%)と、数量・金額とも前年を上回った。鶏肉は数量1,455g(同101.5%)・金額1,492円(同108.5%)・単価102.6円/100g(前年同月+6.6円)と、数量・金額・単価とも前年を上回る結果となった。調理食品が金額11,595円(同106.2%)、外食が12,945円(同107.9%)となっている。光熱費の高騰やあらゆる商品の値上げが相次ぐ中、節約志向が高まり、内食・中食需要が持ち直してきている。外食においても、行動制限もなく、加えて入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、コロナ前に戻つつあると考えられる。</p>
	<p>2. 量販・卸</p> <p>(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和5年6月の食品売上高は全店ベースで前年比104.5%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同102.5%、既存店ベースは同101.5%となった。また、畜産部門の売上高は約1,130.2億円で全店ベース同104.8%、既存店ベース同103.8%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、行楽・イベント需要も回復による人流の活発化などもあって中食需要が伸長しており、また節約志向による内食需要も堅調で、販売は順調に推移している模様。お客様は概ね値上げを受け入れている一方で、より低価格の商品を求める傾向が強まっているとのこと。畜産部門においては、精肉全般で相場高が続いているが、豚肉・鶏肉では安価な部位を中心に好調。牛肉では国産相場は落ち着きが見られているものの、輸入品のほうが動きがよい。パーベキュー需要は苦戦。加工肉を含め、低価格商品に需要がシフトしており、売上高は確保できて利益が取れない状況が続いているとのこと。</p>
	<p>3. 業務・加工筋</p> <p>(1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和5年6月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比105.8%の4.8千トとなった。うち国内品は同93.3%の3.6千トと前年を下回り、輸入品については同172.6%の1.2千トと前年を上回った。</p>
在庫	<p>1. 令和5年6月</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産28.6千ト(前年比93.7%・前月差▲0.7千ト)、輸入品133.6千ト(同112.2%・同+6.1千ト)と合計で162.2千ト(同108.5%・同+5.4千ト)となった。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、6月の出回り量は国産142.3千ト(前年比100.8%・前月差+1.4千ト)、輸入品51.6千ト(同105.7%・同+7.9千ト)と合計で193.9千ト(同102.0%・同+9.3千ト)となった。7月以降の国産在庫については、販売に苦戦しているモモ肉を中心に増加していくと予測する。輸入鶏肉については(独)農畜産業振興機構(ALIC)の予測では、入荷量は、7月は、鳥インフルエンザ拡大を懸念したブラジルの輸出品に引き続き増加するところから、前年を大きく上回ると予測される。出回り量は前年をわずかに上回る予測のため、7月の期末在庫は前年同月を大きく上回ると予測される。(鳥インフルエンザの影響で8月の輸入量は不確定要素が多いとして発表されていない)</p>
相場	<p>1. 令和5年7月動向</p> <p>(1) 令和5年7月の月平均相場は、モモ肉709円/kg(前月差▲36円)・ムネ肉398円/kg(同▲7円)正肉合計で1,107円/2kgと前月を43円下回り、前年同月を130円上回った。モモ肉相場は月初721円、月末は688円となり(昨年は月初627円、月末643円)、昨年の相場を大幅に上回った。九州で一部豪雨の影響があったが、暑さの影響はさほどなく生産は順調に推移している。モモ肉においては、相場が下がってきたことで、スーパーでは2桁の価格で特売を打つ店舗も増えてきたが、通常価格を下げるまでには至っていない。相場高騰の煽りや、気温上昇の影響を受け販売は苦戦し、凍結回しが増えてきている。ムネ肉は鳥インフルエンザによる採卵鶏の親鳥不足の影響や、気温上昇に伴い涼味用商材としての需要もあり、生鮮品・冷凍品とも販売は順調である。相場はモモ肉は下げ傾向にあるが、6月も引き続き高水準を維持した。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) 8月の生産量は、前年を上回る計画である。ただ、気温が上昇し35℃を超える日が続いているため、生産への影響が懸念される。量販店では鶏肉の販売は回復傾向が見られるとあるが、気温上昇の影響で国産モモ肉の苦戦は続くと思われる。ムネ肉においては、モモ肉に比べると安価であり、涼味用商材として需要もあり、生鮮品の販売は順調に推移すると思われる。親鳥不足の影響もあり、凍結品は相変わらず引き合いは強い。ブラジルからの輸入停止措置により、国産品への切り替えを期待したいが、影響は少ないと思われる。以上のことから、モモ肉相場は下げの月平均670円、ムネ肉相場は弱もちあいの月平均390円と予測する。</p> <p>(2) 7月に入り、ブラジルの主要生産州のひとつであるサンタカタリーナ州で鳥インフルエンザの感染が確認され輸入が停止された。輸入鶏肉の国内在庫が多いことや、禁輸措置が州単位で実施されたが他州からの輸入は可能なため、流通への影響は少ないと思われる。ただ、価格においてはタイ産とともに高値に変化しており、今後の国産鶏肉の反応も注視が必要である。8月も、30℃を超える日が続くと思われ、モモ肉の販売は引き続き苦戦が続くと思われる。しかし、今後も食品をはじめ様々な物価高騰による値上げが続くことから、節約志向が働き、他の畜種と比較すれば安価な鶏肉の販売は底堅く推移すると思われる。モモ肉は下げ基調であるものの鶏肉相場は例年にない高水準で推移していくと思われる。</p>

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

	R4年累計		R5年6月推計実績		R5年7月計画		R5年8月計画		R5年9月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	774,648	100.1%	62,011	102.0%	62,595	99.2%	67,715	100.9%	68,398	100.9%
処理羽数	737,217	100.2%	61,862	101.6%	58,998	101.0%	60,606	101.9%	60,980	102.5%
処理重量	2,224.1	99.9%	187.0	101.7%	174.2	100.5%	179.0	102.8%	180.7	102.5%

※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向 単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年1月	44.4	53.8	82.5	34.3	43.2	79.4	78.7	97.0	81.1	56.4	43.6
R5年2月	47.1	49.6	95.0	32.1	38.8	82.7	79.2	88.4	89.6	59.5	40.5
R5年3月	47.5	45.1	105.3	40.6	47.8	84.9	88.1	92.9	94.8	54.0	46.0
R5年4月	47.4	43.6	108.8	39.9	44.1	90.4	87.3	87.7	99.6	54.3	45.7
R5年5月	51.7	42.5	121.7	35.4	42.1	84.1	87.2	84.6	103.0	59.3	40.7
R5年6月	57.7	52.2	110.6	39.7	46.2	86.0	97.5	98.4	99.0	59.2	40.8

※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向 単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年1月	1,491	1,563	95.4	1,559	1,450	107.5
R5年2月	1,402	1,483	94.5	1,475	1,404	105.1
R5年3月	1,497	1,550	96.6	1,511	1,439	105.0
R5年4月	1,572	1,512	104.0	1,566	1,368	114.5
R5年5月	1,485	1,476	100.6	1,530	1,403	109.1
R5年6月	1,455	1,433	101.5	1,492	1,375	108.5

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年) 単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010

在庫状況(推定) 単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年1月	24.4	35.1	69.6	125.6	123.2	101.9	150.0	158.3	94.8
R5年2月	25.0	33.9	73.7	128.1	129.3	99.1	153.1	163.2	93.8
R5年3月	27.0	32.5	83.2	126.9	125.2	101.4	153.9	157.7	97.6
R5年4月	27.5	31.3	87.9	119.5	116.3	102.8	147.1	147.6	99.6
R5年5月	29.3	31.2	94.2	127.5	115.7	110.2	156.8	146.9	106.8
R5年6月	28.6	30.5	93.7	133.6	119.1	112.2	162.2	149.6	108.5

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別) 単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R4年度平均	702	627	112.0	371	317	117.0	1,073	944	113.7
R5年4月	789	622	126.8	410	315	130.2	1,199	937	128.0
R5年5月	774	624	124.0	408	321	127.1	1,182	945	125.1
R5年6月	745	624	119.4	405	326	124.2	1,150	950	121.1
R5年7月	709	637	111.3	398	340	117.1	1,107	977	113.3
R5年8月	(670)	649	103.2	(390)	354	110.2	(1,060)	1,003	105.7
R5年9月	(650)	667	97.5	(390)	364	107.1	(1,040)	1,031	100.9

※()は見直し